

将来構想研究会の検討状況

2020.10.22 更新

兵庫県の新しい将来ビジョンの策定に向けた基礎的研究を行うため設置した将来構想研究会では、これまで12回の会議を開催した。各会議の概要と今後の予定は下表のとおりである。

回	議題	概要
第1回 (9/12)	策定方針 新ビジョンの策定意義、機能、 重視すべき視点等	<ul style="list-style-type: none"> ・新ビジョン検討において重視すべき視点等を討議 〔結果要旨〕 ・強力な方向性を持つビジョンが必要 ・人口減少=衰退のステレオタイプを壊すことが必要 ・リスクを取っても大丈夫と安心できる社会にしたい
第2回 (11/12)	人口動態① 将来推計人口から見えてくる 2050年の兵庫像	<ul style="list-style-type: none"> ・将来推計人口をもとに兵庫の将来像を討議 〔結果要旨〕 ・「なりたい姿」を思い切って描くビジョンにすべき ・課題が山積している地方こそ若者のフロンティアだ ・教育も含めサラリーマン社会からの脱却が必要 ・固定化ではなく流動化を促す仕組みへの転換が必要
第3回 (12/19)	人口動態② 今後の検討課題	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回・第2回会議の意見交換結果と市町ヒアリング結果をもとに今後の検討課題を討議 〔結果要旨〕 ・科学技術の進展で距離の制約が弱まり「どんな場所でも豊かな暮らしが営める兵庫」が一つのめざす姿 ・地域における体験を通じた学びが違いを生む時代に ・新しい何かを次々と生み出す動的なビジョンが必要
第4回 (2/18)	社会潮流 俯瞰① AIによる未来予測から考える 兵庫の未来 〔ゲストスピーカー〕 広井良典京都大学教授他	<ul style="list-style-type: none"> ・京都大学・日立製作所と共同で実施したAIによる未来予測の結果をもとに兵庫の未来の方向性を討議 〔結果要旨〕 ・選択可能な複数の未来の姿と、そこに至る分岐点を浮き彫りにする中で、都市集中型よりも自立分散型のシナリオの持続可能性が高いことを確認
第5回 (3/26)	社会潮流 俯瞰② 県民意識調査から見る新ビジ ョンの方向性 〔ゲストスピーカー〕 草郷孝好関西大学教授	<ul style="list-style-type: none"> ・2002～19年度（18か年分）の県民意識調査の結果をもとに新ビジョン検討で深掘りすべきテーマを討議 〔結果要旨〕 ・未来の選択肢を広げる「資本」の議論を深めるべき ・分散居住を支える物理的資本（ICT基盤等）に加え、「社会関係資本」「心理的資本」など暮らしの質や県民の力を高める無形の資本に目を向けるべき

回	議題	概要
第6回 (4/15)	社会潮流 テーマ別検討① 移動・交通の未来 〔ゲストスピーカー〕 西田純二京都大学特命教授	<ul style="list-style-type: none"> 分散型の社会構造を支える移動・交通ネットワークの将来像を広域・狭域の双方の視点から討議〔結果要旨〕 「需要創造型」の壮大な交通ビジョンを描くべき 移動費用の低減は一極集中を促す。交通を整備しても地方に本源的需要がなければ分散化は進まない 超小型モビリティで高齢者も自立して安全に動き回れる社会をめざすべき。道路空間の再配分が必要
第7回 (5/20)	社会潮流 テーマ別検討② 産業・雇用の未来 〔ゲストスピーカー〕 松永桂子大阪市立大学准教授	<ul style="list-style-type: none"> 産業のデジタル化、働き方の多様化が進む中で、兵庫の産業は何を強みにし、何で稼いでいくかを討議〔結果要旨〕 新しいライフスタイルを産業化できるかが鍵 「エッセンシャルワーカー」の価値が高まる オンラインで価値を生める人間が力を持つ時代に 学びと仕事が同時進行し、副業が当たり前の社会に
第8回 (6/25)	社会潮流 テーマ別検討③ ポストコロナ社会のめざす姿 〔ゲストスピーカー〕 山中俊之神戸情報大学院大学教授	<ul style="list-style-type: none"> コロナ危機を契機とした暮らし方や働き方の変化、新しい生活文化の方向性について討議〔結果要旨〕 人類史上初の「仕事」のない時代が到来する可能性。人が何で生きていくかの真価が問われる社会に 元々弱い社会の連帯が更に弱まる可能性。リスク防衛の観点からも共同体の再構築が急務 リアルな出会いの豊かさが地域の価値になる時代に
第9回 (7/27)	社会潮流 テーマ別検討④ 自立分散型の地域構造 〔ゲストスピーカー〕 齊木崇人神戸芸術工科大学長	<ul style="list-style-type: none"> 多様な地域を擁する兵庫が目指す分散型の地域構造の具体像と、その実現に向けた課題を討議〔結果要旨〕 地方は既にコンパクトで、分散居住の素地はある。後は私たちの生き方、働き方が変わるかどうか 仕事の拠点自体が地方にある分散居住が目指す姿 どこでどんな働き方ができるかのモデル化が必要
第10回 (8/21)	社会潮流 テーマ別検討⑤ 家族の未来、住まいの未来 〔ゲストスピーカー〕 平山洋介神戸大学教授	<ul style="list-style-type: none"> 家族の姿は今後どうなるか、またこれと不可分な住まいの未来、住まいの保障のあり方を討議〔結果要旨〕 「世帯単位社会」の終焉を前提とした住宅政策が必要 モノを詰め込んだ「重い家」よりもモノが少ない「軽い家」を志向するライフスタイルが広がる 雇用の流動化で「持ち家社会」は限界に。家を持たないまま安心して老いられる社会づくりが必要

回	議題	概要
第11回 (9/23)	社会潮流 テーマ別検討⑥ コミュニティの未来 [ゲストスピーカー] 山崎 亮 studio-L 代表	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人のつながりがどう変化し、今後どのようなコミュニティが求められるようになるかを討議 [結果要旨] <ul style="list-style-type: none"> ・各人が自動で移動する空間の中で暮らす時代が来る ・場所で規定される「重い」コミュニティから関心により無数に生成される「軽い」コミュニティへ移行 ・地域コミュニティは地縁型からクラブ型へ移行し、住民以外の多様な主体が関わり運営する形に
第12回 (10/21)	社会潮流 テーマ別検討⑦ 教育の未来・人生の未来 [ゲストスピーカー] 西村和雄 神戸大学特命教授	<ul style="list-style-type: none"> ・人はどんな人生を歩み、どんな力を求められる社会になるか、教育の課題と将来像について討議 [結果要旨] <ul style="list-style-type: none"> ・所得や学歴よりも、自己決定が幸福度に大きく影響 ・心理的資本（心のしなやかさ）を高める教育が必要 ・子どもの自己決定を支援することが親と教師の役割 ・子どもの教育が学力偏重で、基本的な規律の習得が不十分。幼児教育にもっと真剣に取り組むべき
第13回 (11/17)	取りまとめ① [ゲストスピーカー] 諸富 徹 京都大学教授	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別検討の総括と将来構想試案骨子案 ※テーマ別検討で深掘りできなかった事項を含めて社会潮流の全体像と新ビジョンの方向性を協議
第14回 (12/21)	取りまとめ②	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想試案（素案）
第15回 (1月)	取りまとめ③	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想試案（案）

※将来構想研究会の会議資料・議事録は兵庫県 HP に掲載

県 HP を「将来構想研究会」で検索 または <http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk07/vision2050.html>